

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 I		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成24年1月	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「楽しく、優しく、元気よく」を理念とし、職員は日々、利用者様の立場にたったケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、利用者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、今年度より『ひやりはっ』身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』『おむつ』委員会を事業所内にも設け、月に一度、会議と職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は周囲が山、川、海と、自然豊かな環境に立ちっており、3階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景を楽しむ事ができます。中庭は芝生と花壇、家庭菜園があり、利用者様と季節毎に野菜、花を植えています。よろしければ、皆様、お気軽に遊びに来て下さい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

楽しく、優しく、元気よくのグループホーム理念のもと、いつも笑顔で接するよう職員は支援しており、常に清掃が行き届いた清潔な事業所である。ひやりはっ、身体拘束・高齢者虐待、感染症予防、おむつ委員会など多彩な委員会を立ち上げ、利用者へのサービス向上に努めるなど管理者のリーダーシップや職員の努力によりここ数年で大きく改善が進んでいる。また、利用者への尊厳を意識して声かけではなく言葉かけを実施するなどより丁寧な対応を実施している。介護計画に関しても、目標として掲げられた項目に対しての支援をきちんと丁寧に実施していることが確認できる。今後、取り組む必要のある災害訓練等の重点項目についても独自で検討し実施を予定するなど、計画・実行・評価・改善を意識し改革を進めている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内の目に付く場所に掲示しており、管理者・職員ともに理念の実践に取り組んでいます。また、勉強会を開催し、理念の意味やその本質について意識の共有を図っています。	「楽しく、優しく、元氣よく」を理念に掲げている。理念については、4月に法人全体の理念が管理者から伝えられる他、新人に対しては主任より説明が行われている。職員は毎日のケアを行う上で、笑顔を決して絶やさず優しく接する事、利用者に話しかける口調にも心を込める事を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の小学校の生徒さんや、近所のグループホームの方々を招いて芋掘りを行っています。また「子供110番の家」になり児童が安心して登下校出来るよう努めています。	年に一度、地域への奉仕として草刈りに参加している。また、地元の小学校の児童を招いて芋掘りを行ったり、子供110番の家を引き受け子供を守る取り組みに参加している。近隣の住民の方々とは、利用者の散歩の際に挨拶をする程度に留まっている。	地域の住民の方にホームの存在を認識してもらい、利用者の生活について理解を深めていただく取組みを行う事で、利用者が地域に根差して暮らしていけるよう双方向の交流が行われるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の住民の方に参加して頂き、その中で質問に応じたりしております。また、包括支援センターに協力頂き、地域住民およびご家族を対象とした、「認知症サポーター養成講座」を開催いたしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ご家族・地域住民および市職員から頂いたご意見や要望等は職員会議にて話し合いを行い、その回答及び取組状況を議事録に付記し、運営推進会議にて報告しております。	年に6回、規程のメンバーで運営推進会議は実施されている。議題は、行事の報告の他、事故やヒヤリハット事例の報告、火災訓練についての説明が行われている。認知症サポーター研修を家族や地域に向けて実施してはどうかという提案により研修を実施した事例があるなど会議での意見が運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員や地域包括支援センターの職員に参加して頂いており、その中でケアや取組みについて助言等頂き、継続的に協力いただいています。	長崎市とは、運営推進会議での交流の他、日ごろから電話があり、困った事がないかの問い合わせがあっており、相互の信頼関係が構築されている事が確認できた。また、包括支援センターを主体として家族向けの認知症サポーター研修を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待防止委員会を組織しており、月に一度会議を行いケアの方針や啓発活動を行っています。また、勉強会を開催し、身体拘束はもちろん、言葉による拘束についても教育を行っています。	身体拘束については内部外部を含めて計4回の研修が実施されている。新人職員へは集中的に教育が行われている。所内に委員会が設けられ、身体拘束の禁止が徹底されている。特に、日ごろの言葉かけについては主任より教育が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会を組織しており、月に一度会議を行いケアの方針や啓発活動を行っています。また、施設内外の研修にも参加し、虐待について学ぶ機会を設け、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の勉強会に参加し、学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、それぞれ十分に説明を行いご家族に納得、同意の上、捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意しており、利用者やご家族が無記名にて記入して頂けるようにしています。また、重要事項説明に施設、外部窓口の連絡先を明記しています。	利用者や家族が意見を表明できるよう内部や外部に相談窓口があることを説明している。また、家族からは運営推進会議を通じて意見をくみ上げる他、面会時に家族からの要望を聞き取っている。現在のところ、運営に反映した意見等はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひやりはっと、身体拘束及び高齢者虐待、感染症予防、おむつ委員会を組織しており、月に一度会議を開催。代表者や管理者も参加し、意見交換やケアの方針を決める場としています。	ひやりはっと委員会をはじめとして4つの委員会が組織され活発な意見が出されている。また、職員からの研修への参加の希望や物品の購入の要望も受け入れられている。行事の際の弁当のメニューや場所の選定について職員の提案を活かし実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろの勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。また、代表者は職員に対してその努力に対して言葉をかけるなど、職員のモチベーション向上に配慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加や、経験及びその力量により、キャリアアップに繋がる、実践者研修等に参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に入会しており、協議会主催の研修会やイベント等に参加して、他施設職員と交流し情報交換を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族に面談を行い要望をお聞きし、ケアプランに取り入れています。また、日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら、不安な事、困っている事がないかを聞きとるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族に面談を行い要望をお聞きし、ケアプランに取り入れています。また、面会時にお話しをする時間を取るようにし、信頼関係を築いていこう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談の際に得た情報をもとに、サービスの内容を検討し、必要に応じて他施設等の紹介も行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所されている方々は人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持って接するようになっています。また、食事作りや掃除、洗濯など一緒に行うようになっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に、近況等についてお話しをする時間を取るようになっています。また、遠方にお住まいで中々面会に来ることが出来ないご家族には電話にて近況等を報告し、連携を図るようになっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力のもと、お墓参りや外食、外泊を行っています。	家族や友人知人、神父様やシスターの訪問がある。家族の協力を得て、外泊や外食、墓参りなどに出掛けたり、定期的に理容師が散髪に訪れている。外出できない利用者の希望に応じて、家族や友人への電話の支援も行っており、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考慮し、食事の座席を決めたりレクリエーションを行うようになっています。また、茶話会等で職員が間に入りながら、入居者同士の関係作りを支援していくように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には、職員が交代で面会に行くようにしています。また、サービスが終了しても希望があれば相談や情報提供を行うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情、言葉、動きをしっかりりと観察するよう心がけています。その中で分かった思いや問題は職員間で話しあったり、モニタリングやケアカンファに取り上げるようにしています。	職員は単なる声かけではなく利用者の気持ちになって考え、そばに寄り添い言葉をかけている。発語困難な方は表情や動きから思いや意向を汲み取り、把握に努めている。把握した内容や問題は職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当ケアマネージャーから、その方の仕事・生活歴、趣味や癖などの情報を教えて頂き、生活情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を記入し、一人ひとりの状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、担当ケアマネージャー、必要に応じて管理者や看護師も参加し、定期的にモニタリングを行っています。それをもとに家族に意見や要望をお聞きし、介護計画を作成しています。	本人と家族、以前利用していた施設等の情報を基にアセスメントを行い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に見直しを行い、計画作成担当者は家族から訪問時や電話で希望を聞いている。職員は日々の個人記録と目標を連動させ、目標の達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録に、介護計画の実践状況や結果、気づきを記入しており、情報の共有や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方々との交流はもちろん、本人やご家族の状況、要望に応じ、ドライブや買い物などに出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民大清掃に参加したり、地域の小学生や他施設との交流を行っています。秋のイモ掘りでは、小学生に鍬の使い方を教えてあげるなど、とても楽しそうでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に母体の医療機関の説明を行い、本人およびご家族の同意を得て、定期的な受診を行い、受診結果は都度、ご家族に報告しています。	利用開始前のかかりつけ医を継続できるが、緊急時に対応できるよう本人と家族に同意を得て、母体の医療機関に引き継いでいる。週1回受診を行っており、歯科往診や眼科通院など職員が同行し受診支援している。受診結果はその都度家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、医療連携の看護師に来て頂いています。バイタルサインやスキンチェック等の情報を伝え、必要に応じて相談や指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから定期的な受診しており、早期の入院治療を行ってもらっています。また、バイタルサインの変化や気づき等があった場合も連絡し、対応を相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は契約時に本人、ご家族に書面と口頭にて説明を行い同意を得ています。また、状態の変化に応じて、ご家族、主治医、事業者が対応について相談し、方針を決定するようにしています。	重度化や終末期に向けた方針は利用開始時に本人と家族に同意を得ている。症状が変化した場合、医療機関と連携をとり、家族と話し合い方針を決定している。今までに看取りの事例はなく、家族の意向があった場合、看取りを行う方針となっているが、職員研修など行っておらず事業所の体制が整っていない。	家族の意向があった場合、本人と家族が安心して納得した最期を迎えられることや職員の支援に対する不安を取りのぞく為に、看取りに関する研修や勉強会を行うなど、事業所における看取りの体制を整えていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修に参加しています。また、年2回の避難訓練に合わせて、訓練を行うようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。夜間想定では消防署立ち会いのもと訓練を行い、消火器取扱いや避難時の指導をして頂きました。	年2回避難訓練を行っており内1回は消防署立会いのもと夜間想定での避難訓練を行っている。消火器やスプリンクラーの設置など防火対策を強化しており、非常食や水など備蓄品も備えている。但し、火災時に関しては消防署の指示を仰いでいるが、他の災害を想定した訓練が行われていない。	いざという時に利用者を安全確実に避難誘導できるように火災以外にも自然災害を想定した避難訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による拘束、抑制がないように、また、誇りやプライバシーを損なわないように、言葉かけや誘導に注意しています。	トイレ誘導など必ず利用者のそばに行き敬語で言葉かけを行い、トイレでの支援はなるべく利用者の視界に入らないよう配慮している。居室にトイレがあるため居室のドアを開けるときは一声かけて開け、ドアに目隠しもしている。個人情報保護のため職員の入社時に誓約書を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話しを傾聴しながら、本人が思いや希望を言えるような接し方を心掛けています。また、職員主導にならないよう、自己決定できるような言葉かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の個別記録から、一人ひとりの生活の流れを把握し、その人にあった過ごし方を送っていただけるような支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容室の方がホームに来られ、希望する入居者様の散髪をして頂いています。また、衣服をご自分で着る事の出来ない方については、本人に確認をとるようにし、着る服を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳、皿洗いと体調を見ながら職員と一緒に行っていただいています。	食事中は音楽を流し、職員一名が利用者と同じものを一緒に食べ配膳や片付けもできるだけ一緒にしている。アレルギーや好き嫌いは入居時に調査し、利用者の状態に合わせて刻み食やミキサー食も提供している。また、誕生日の手作りケーキなど行事食もあり食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された食事量が分かるよう記録を残し、定期的に水分補給ができるようお茶の時間等を作っています。また、咀嚼、嚥下機能に合わせ、食事形態や量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。義歯についても夕食後、定期的にポリドント液に浸し、殺菌消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートを作成しており、入居者様の排泄パターンを把握し、排泄の失敗を少なくするよう支援を行っています。おむつ委員会でおむつの使用、当て方などを職員で話し合い、使用量の最適化に努めています。	排泄チェックシートを作成し利用者の排泄パターンを把握し排泄の失敗を少なくするよう支援している。おむつ委員会を設置し、おむつの当て方の学習や使用量を調査し統計を取りおむつの枚数の軽減に努め、快適な生活を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を行い、腹部マッサージや適度な運動を行うよう心掛け、チェック表にて排泄確認を行っています。便秘症の方に関しては、主治医に相談し、下剤の調整を行っています。排泄困難時には医療機関にて、適便をして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めています。本人の希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、入浴の順番など一人ひとりに確認し、本人の希望に添えるよう支援しています。	原則、週に3回は入浴するようにしているが、体調の優れないときは無理をしない。毎日、いずれかのユニットが入浴準備しているためいつでも入浴できる体制が整っている。入浴時はなるべく同性介助を行い、ゆず湯など季節の湯で楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の体調や気分に合わせて、休息を取ってもらうように支援しています。また、夜間十分に睡眠をとって貰えるよう生活のリズムを整えたり、睡眠時の室温や照明など、本人の希望に合わせているよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の個人カルテに、服用されている薬の説明書きをさめており、日々、職員はそれに目を通し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。また、医療機関へも情報提供を行い、連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの能力に応じて、お皿洗い、洗濯物干し、畑で野菜作りのお手伝い等をして頂き、楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方がいらっしゃれば職員がお連れしたり、家族の方にも協力を得ながら、お買いもの、お出かけをして頂いています。また、季節毎に花見やピクニックなどを企画しています。	月に一度は車で買い物など外出している。他の階にも行き来し、車椅子の利用者でも週に2回は外出を支援している。また、公園などに花見やピクニックに出かけている。さらに、外泊や墓参り、外食など家族の協力のもと一人ひとりの希望に沿って外出支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があれば、小金額を持って頂いており、お出かけした際になど買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があれば電話をかけて頂いています。また、お手紙が来た際になど、依頼があればお手紙を書けるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快や混乱も招かないよう配慮しています。また、玄関、テーブル、フロア内に四季折々の飾りや花を置き居心地の良い空間作りに努めています。	共有空間では利用者が不快に感じる音や光、温度などは適度に保たれている。また、花など季節感のある装飾が施され、利用者が一人になれるソファや横になれる量のスペースを設けるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の居室、フロア内、屋外と、その時の気分で自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、危険物でない限り持ち込みの制限はしておりません。ご家族に出来る限り本人の馴染みの物を持って来て頂くようお願いしています。	居室には持ち込みの制限は無く使い慣れた家具などを置いている。清掃は日に一度、居室内のトイレは職員が随時行うようにしている。プライバシー保護のためドアのガラスには一部目隠しを施し、転倒防止のためベッドではなくマットレスのみを使用するなど居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動が出来るようにしています。また、車イスのまま食事が摂れるようテーブルの配置転換をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 II		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成24年2月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「楽しく、優しく、元気よく」を理念とし、職員は日々、利用者様の立場にたったケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、利用者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、今年度より『ひやりはっ』身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』『おむつ』委員会を事業所内にも設け、月に一度、会議と職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は周囲が山、川、海と、自然豊かな環境に立っており、3階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットに掲示しており、日々のミーティングにおいても、入居者様の立場にたった介護を考えて実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生が慰問に訪ねて下さったり、「子供110番の家」になり、児童が安心して登下校できるように努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の住民の方に参加して頂き、その中で質問に応じたりしております。また、包括支援センターに協力頂き、地域住民およびご家族を対象とした、「認知症サポーター養成講座」を開催いたしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、家族、自治会の方に外部評価の結果を報告し、より良いグループホーム作りを目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市の担当者と密に連絡を取り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やもちろん、言葉による拘束も行わない事を勉強会や会議にて話し合い、実行しています。また、身体拘束防止委員会を設けており、月に一度会議を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は積極的に勉強会等に参加し、知識を深め、虐待防止に努めています。また、高齢者虐待防止委員会を設けており、月に一度、会議を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、それぞれ十分に説明を行いご家族に納得、同意の上、捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の方が面会に来られたとき、話しやすいような雰囲気作りを心掛けており、“ご意見箱”という、苦情受付箱を設置しています。また、重要事項説明書に「長崎市役所高齢者すこやか支援課と、長崎県国民健康保険団体連合会の電話番号を記載しています。」		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中から、リーダーを通じ業務改善の提案を聞き、入居者様が快適に過ごせるように工夫しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろの勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。また、代表者は職員に対してその努力に対して言葉をかけるなど、職員のモチベーション向上に配慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加しています。参加できなかった職員にも資料等で研修の内容を伝えるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、長崎市認知症グループホーム連絡協議会に入会しており、協議会主催の勉強会やボーリング大会等に積極的に参加するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、本人、ご家族の要望をお聞きするとともに、入所後も1週間程度、モニタリングを行い、ケアカンファを開催しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に当事業者の介護理念の説明や、実際のケアを見て頂いております。また、状況に応じて、面会を頻回にして頂き、家族と意見交換を行い信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス機関での対応が困難となり、入所依頼がくるケースが殆んどであり、状態に応じて他の施設等を紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所されている方々は人生の先輩であり、尊敬の気持ちを常に持ち接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に、近況等についてお話しをする時間を取るようにしています。また、遠方にお住まいで中々面会に来ることが出来ないご家族には電話にて近況等を報告し、連携を図るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の協力を得て、外食や買い物など外出を行っています。外出できない場合は電話にて話す事で関係継続に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に口論することもあります。職員が間に入って収めるようにしています。お互いに刺激しあいながら楽しく過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には、職員が交代で面会に行くようにしています。また、サービスが終了しても希望があれば相談や情報提供を行うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションにおいて、表情や会話の内容から、要望や不安などを読み取るように努めています。訪室や入浴時にも言葉かけを行い、状態に応じた介護に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当ケアマネージャーから、その方の仕事・生活歴、趣味や癖などの情報を教えて頂き、生活情報シートを作成しその方にあつた生活サイクルの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その方に適した対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアが介護計画に沿っているか、目標を達成できたかをモニタリングをし職員で確認しています。計画作成担当者はご家族の面会時に希望を聴取し、面会できないご家族には電話を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録に、介護計画の実践状況や結果、気づきを記入しており、情報の共有や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状態、要望の応じ、ご家族と外出されたり、ドライブに出かけたりと、出来る限り家庭的な雰囲気の中で一日を楽しく過ごして頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設や他ユニットへの訪問などでユニット以外の方々と交流を持って頂き、日頃の暮らしを楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関で定期的に受診しています。歯科の定期往診もあり、眼科や皮膚科などへはご家族と相談し、近くの提携病院で受診して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度、看護師に来て頂き、入居者様の状態を見て頂いたり、日々のバイタルサインの変化などの情報交換を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には相互に情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の変化があった場合はご家族に連絡し、主治医との相談して方針を決定しています。また、定期的に病状説明をお願いするようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアル、連絡網を作成しており、必要に応じて指導、訓練をおこなうようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。夜間想定では消防署立ち会いのもと訓練を行い、消火器取扱いや避難時の指導をして頂きました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内のトイレ使用時には、扉を確実に閉めるように徹底しており、プライバシーを損ねないように、言葉かけや誘導には十分に注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望があれば、必要な物品の購入や外出を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大事にした支援を行っています。また、気分転換を兼ねてレクリエーションへの参加を促したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の方が行きつけの美容室に連れて行って下さったり、月に一度、美容室の方が訪問してくれていますので、希望する方は散髪をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や気分を見ながら、出来る方には配膳や下膳、皿洗い、テーブル拭きやどを手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された食事量が分かるように記録に残し、定期的に水分補給をして頂くように心がけています。また、お茶やお水をあまり飲みたがらない方には、ご家族や医療機関と相談し、清涼飲料水を提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っています。また、週2回、義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにて、各々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。また、おむつ委員会を設けており、おむつの当て方やその方にあった種類の選定を話しあっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給をして頂くよう心掛け、チェック表にて排泄確認を行っています。また、便秘の方には腹部マッサージを行い対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めています。本人の希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、入浴の順番など一人ひとりに確認し、本人の希望に添えるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の体調や気分に合わせて、休息を取ってもらうように支援しています。また、夜間十分に睡眠をとって貰えるよう生活のリズムを整えたり、睡眠時の室温や照明など、本人の希望に合わせて努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の個人カルテに、服用されている薬の説明書きをはさめており、日々、職員はそれに目を通し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。また、医療機関へも情報提供を行い、連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの能力に応じて、お皿洗い、洗濯物干し、食事の下ごしらえなどのお手伝い等をして頂き、楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方がいらっしゃれば、職員と庭にでたり、季節での花見やピクニックなど、気候の良い時期は外出の企画を立てて実行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があれば、小金額を持って頂いており、お出かけした際になど買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引きたい方にはご家族と相談を行い、引いて頂いています。また、ホームにかかって来た場合には、イスに座ってゆっくりと話ができるように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として明るく、外の景色が良く見え、季節を感じる事ができます。また、入居者様がゆったり、安全に行動できるよう、家具の配置にも配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の居室、フロア内、屋外と、その時の気分で自由に過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物でない限り、持ち込みの制限はなく、飾り小物など、入居者様の個性が見える居室にし、居心地よく過ごせるように心がけています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車イスの方でも自由に移動が出来るようにしています。また、車イスのまま食事が摂れるようテーブルの配置転換をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101885		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン琴海 Ⅲ		
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町713番地		
自己評価作成日	平成24年1月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく、優しく、元気よく」を理念とし、職員は日々、利用者様の立場にたったケアを心掛けています。母体の医療機関との連携も密にとっており、地域医療、高齢者医療を実践していますので、利用者様、ご家族様とも安心して頂けると思います。また、今年度より『ひやりはっ』身体拘束・高齢者虐待防止』『感染症予防』『おむつ』委員会を事業所内にも設け、月に一度、会議と職員勉強会を開催し、サービスの質の向上に努めています。当事業者は周囲が山、川、海と、自然豊かな環境に立っており、3階建ての建物のどのフロアからも四季折々の風景

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内の目に付く場所に掲示しています。また、勉強会を開催し、理念の共有を図っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学生との交流をしており、芋掘りなどを行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の住民の方に参加して頂き、その中で質問に応じたりしております。また、包括支援センターに協力頂き、地域住民およびご家族を対象とした、「認知症サポーター養成講座」を開催いたしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を行い、家族、地域住民の方に外部評価の結果を報告し、より良いグループホーム作りに努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎市や包括支援センターの担当者と連絡を取り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄錠の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、言葉による拘束など、勉強会を開催し、職員一人一人が身体拘束を行わないようにしています。また、職員を「身体拘束廃止推進者研修」に参加させ、より専門的な考え方を浸透させるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会に参加する機会を設け、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加する機会を設けたり、会議の中で、職員間で権利擁護の為の支援について話しあっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、それぞれ十分に説明を行いご家族に納得、同意の上、捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、ご家族と会話する時間を取り、意見や要望を聞き取るようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを通じ、業務改善の提案を聞き、管理者やご家族に相談し、入居者が安全で快適に過ごせるようしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろの勤務状況や実績等、個々の評価によりベースアップや賞与に反映しています。また、代表者は職員に対してその努力に対して言葉をかけるなど、職員のモチベーション向上に配慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や、長崎市認知症グループホーム連絡協議会の研修等に参加しています。また、参加できなかった職員にも資料にてOJT教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の勉強会、ボーリング大会、夏祭り等、積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に面談に行き、本人様、ご家族様の希望を取り入れるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前から相談に応じ、理念の説明や、実際の介護を見て頂いたり、状況に応じて面会をして頂き、ご家族との信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人、家族に面談を行い要望をお聞きし、ケアプランに取り入れています。また、面会時にお話しをする時間を取るようにし、信頼関係を築いていくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とは家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活をして頂けるよう努め、支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、忙しくて面会に来ることが出来ないご家族には電話にて状況説明をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご友人や知人、中にはシスターや神父さんも定期的に来て頂いている入居者様もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の口論等のトラブルもありますが、職員が間に入るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には、職員が交代で面会に行くようにしています。また、サービスが終了しても希望があれば相談や情報提供を行うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉、動きの中からその方の今の状態を把握し、状態に応じたケアを行うよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当のケアマネージャーから本人の過去の仕事、趣味嗜好、癖等の情報を教えて頂き、情報シートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録から、その方の生活リズムを把握し、一人ひとりに適したケアを行うようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員でモニタリングを行い、現状の課題やあり方について話し合っています。不明な点などはご家族と相談し、その方に適した介護計画作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに毎日のバイタルサインなどを記録しており、健康状態、一日の行動、会話などの情報の共有をおこなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に合わせ、ドライブ、ピクニック、散歩などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生や他施設の方の訪問もあり、そのふれあいの中で日頃の暮らしを楽しめるよう、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一回、かかりつけ医に受診し、必要に応じ治療を行って頂くようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、医療連携の看護師に来て頂き、入居者様の状態やバイタルサインの変化などを報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明をし、症状が変化した場合には、ご家族に連絡し、主治医と相談をして方針を決定するようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルや勉強会を通して、訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。夜間想定では消防署立ち会いのもと訓練を行い、消火器取扱いや避難時の指導をして頂きました。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないような言葉かけを心がけています。また、トイレ誘導、おむつ交換時には、居室のドアを閉めるよう徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望があれば、外出やお買いものを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その方のペースや希望にそった生活を送って頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の散髪。行きつけの美容室がある方には、ご家族の協力のもと連れて行って頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや配膳等、その方ができる事を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録、食べやすい量や形態を工夫し提供しています。水分補給も日中、夜間と記録を残すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、各入居者様の排泄のサイクルを把握し、排泄の失敗やおむつ使用の削減を行うようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、腹部マッサージなどを行うようにしています。泄困難時には医療機関にて、適便をして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に決めています。入居者様がいつでも入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーションや、無理のない運動をして頂き、生活リズムを整え、夜間十分に睡眠がとれるよう支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用など個人カルテに説明書きをさめてあるので、それに目を通して、服薬支援と症状の変化の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗洗い、洗濯もの干し、たたみなどのその方の能力、興味に合わせて手伝って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方がいらっしゃれば、職員と一緒に中庭や海岸などに散歩に出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方で要望があれば、小銭程度持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引いたり、外出時にご家族に電話をされたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、フロアの温度調整などを行い、入居者様の過ごしやすい環境を整えるよう心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の居室、フロアと、その時の気分や体調に合わせて、自由に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が馴染まれたものを持って来て頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす、歩行器を使用される方でも、自由に移動できるように居室、フロアと工夫しています。		